

## 『エイジングをテーマにした 多世代交流の街・折尾』

学園&地域交流ネットワーク

= 「折尾」は、単なるレトロの街ではありません =

### 『エイジングをテーマにした 多世代交流の街・折尾』

(aging : 年を積み重ねていくこと : 現在進行形)

#### 「人も街も変化し続ける」

住み慣れた街で、生まれてから死ぬまで、笑顔で暮らせる街、それが「折尾」

折尾駅周辺に、「堀川運河」や「歴史遺産」がコンパクトに集中している街

学園都市、学術研究都市、医学部・大学病院がある街

#### 「学生の街」だからこそできる「新たな試み」

奇想天外な発想は、「折尾」の先人の知恵

「折尾」は、日本初の立体交差駅で、日本の近代化産業を支えた。

そして、今、日本初の

### 『エイジングをテーマにした 多世代交流の街・折尾』で

#### 日本の超少子高齢社会を支えたい。。。

\*\*\*\*\*

以前、乙武洋匡氏が小学校の先生をしていた時、子供たちは、遠慮なくするどい質問をしてきたそうです。しかし、それは、疑問を解決するためであり、その疑問が解けた時には、自ら考え、自分にできることを、自分なりの方法で、自然に手助けをしてくれたそうです。正に、真のノーマライゼーションの考え方であり、エイジングの考え方です。

エイジング、それは特別なことではなく、誰もがみな、刻々と年を重ねていきます。年を重ねるにつれ、できることが増え、そして、できないことが増えてきます。

『折尾は学生の街』です。未来を担う若者が毎年数千人、入れ替わる街です。縁あって、この街で学生時代を過ごし、折尾の歴史遺産に触れ、多世代の人々が、ごく当たり前に笑顔で挨拶し、助け合うことが日々の生活の一部となり巣立って行きます。それが、永遠に続くことを想像してみてください。今、折尾がどう変わらなくてはいけないか方向性が見えてくるのではないのでしょうか？

そこで、超少子高齢社会等に対応する『新たな街づくりを提案』するために、共通認識を取りまとめることが急務であると考え、「スケッチ」を作成し、フレスターニュース発行記念特集50号や100号に寄せられた「折尾の街づくり～私の願い」や多くの方々の願いをここに集結しました。

「日本のモデル地区」となりうるような「住み慣れた街で、生まれてから死ぬまで、笑顔で暮らせる街づくり」の実現に向けた活動が起きることを願ってやみません。